

☆第2レース 南西の風6~7m/s 13:00スタート 距離約1.0マイル

スタートの接触はいやなので安全に行くことにする。それが裏目に出でキャバの下になり、6~7秒遅れになってしまふ。第1レースで右海面が伸びたので右を使うこととし、丁寧に走らせると上マークではトップグループ。トップはアップウインド。上マークを回りきれば2位の位置。マークタッチの36回の方が2タック打つよりリスクが小さいのでヒッティングのつもりで加速し、強引にガイフウの前をラフして廻航する。

スピランでガイフウにやや先行されるが、こっちは無理ハンの真追手でインに入り、下マークは2位。ここでアップウインドに追い付くため完璧なスピダウンを新人の大西に指示。ところがダウンに入るやいなや、スピはデッキに落ちずにスコーンと海中へ。全員「アララララ……」「アチャー」という間に艇は止まり、大西ただ呆然。その間にも風力も増し、後続艇がスコンスコンと抜き去って行く。情けない。スピを引き上げるも上がらず、その時「ピリリッ」という軽やかな音。軽やかなピリリ、ピリリの音は絶え間なく続き、引き上がった時は単なるズタ袋。気を取り直して走り出した時は最下位。それでもがんばるゾとしつこく右海面を使い、ついにフィニッシュ直前で、中野氏が操る女クラリスを抜いてしまう結果。順位はアップウインド、ガイフウ、男クラリスの順。ガンバレはどうにかなるものだと納得するがスピを失った代價は大きい。

☆第3レース 南西の風6~7m/s 14:00スタート 距離約1.0マイル

もう2度と失敗はしませんとクルー全員が誓いレースに望む。いいスタートをすれば今日の艇速では十分トップを取れるからと言い聞かせ、大西にも「ジミー、2度と失敗するなよ」と言い聞かせる。

ゲームプランは右海面を使うも良いスタートをして全艇をカバーしつつ振れタックを打って行く案で決定。

スタートは途中からきたドラゴンに上にこられ、スピードが鈍るが文句を言っても仕方ないので下艇をチェックしつつスピードに専念する。

甲竜がタックし危ないなと思っていたら「ワーウーワーワースターボ」「ガッシャーン！」の音。甲竜の特攻攻撃に男クラリス死亡。いやな物を見てしまった。

2、3回振れタックして右海面へポートで突っ込むとドラゴンがまたスターボで来ているので、ここは上品に「すみません、前、通して下さい」と声をかけ「どうぞ」の声で樂々全艇のトップに立つ。

でも、うしろにいたアップウインドはどうかと思いながら見ていると、案の定ポートのくせに品のない「どけどけ」の声。そんなコールでは品格のあるドラゴンはよけたりしませんね。衝突寸前アップウインドがタックし、そのまま止まってしまう。上マークは独走の形でスピランに入り、差を開き大西に「よっしゃ、ついにやったでジミー」と声を掛け「次のスピダウンの段取りええな！」囁んで含めるように言い聞かせる。もうこの時ダントツトップフィニッシュが目に浮かび瞼が涙で曇ってしまう。

下マークは完璧なライン取りでスピダウン。と思いきや、「ありゃ？」スピはまたも海中へすると入って行くではありませんか。大西はデッキでボーゼンと立っているだけ。目の前が真っ白になるとはこのことで声も出ません。「何じゃこりゃ」レース艇はとっくの昔に遙か彼方に行くわ、流されて何と尼崎の防波堤は近づいて来るわ、岸壁に打ちつけられたら情けない状況。クルーからは「もう帰ろうや」の声。

しかしここでくじけたら男じゃないと思い「練習や！」と言い聞かせ走り出すものの最終順位は女クラリス、サンラック、アップウインド、男クラリスの順で我々は最終のぼりでSS、リッキーリーを抜いて7位でした。

さて、艇上では「オオボケやってくれたやないか、ジミー大西」でジミー君パンチ、ジミー君キック、電気マッサージ、毛剃り、生爪はがし、耳そぎ、鼻そぎと続き、明るい笑い声が大阪湾に遅くまで響いていましたとさ。“ヒエ～ッ”

<総評>

いい風で安定していて大変楽しめました。上位と下位とではテクニックが明らかに異なっており、チョークな海面のぼりと、タッキングの上手下手が明らかに出ていました。

また追手は昨年の全日本で見せたバシュフォードや中野氏の真追手の走らせ方が特に重要なポイントになると思います。

ハンサムではメインはブームをサイドステイにあたるまで出し、ポールも一杯にしてアンヒールをかけて走らせていますが結構速いし、風の振れにも即座に対応できます。

セーリングワールド誌でもケンリードがダウンウインドの重要性を記載していますので、今後ダウンウインドセーリングがこれからレースシーンでは非常に重要になると思います。練習に励んでください。

また今回第3レースではドラゴンがレース海面にいましたが、ドラゴンに限らず他艇がいても邪魔者扱いせず、海上衝突予防法を主体に気持ち良く海面を利用していった方がJ-24の評判もレベルも品格も上がると思います。

最後に、レース運営を横山さん一人でやってもらっていますが、ご苦労される面もあり、人手不足でレースに出れない艇の方がいられたら、レース見物がてらに手伝っていただけたら幸いと思います。

コミッティー側からレースを見ると良くわかりますし、参加艇の中で人手のない所に手伝いもできると思いますので。

それではこれから暖かくなりますので本格的にレースを楽しみましょう。